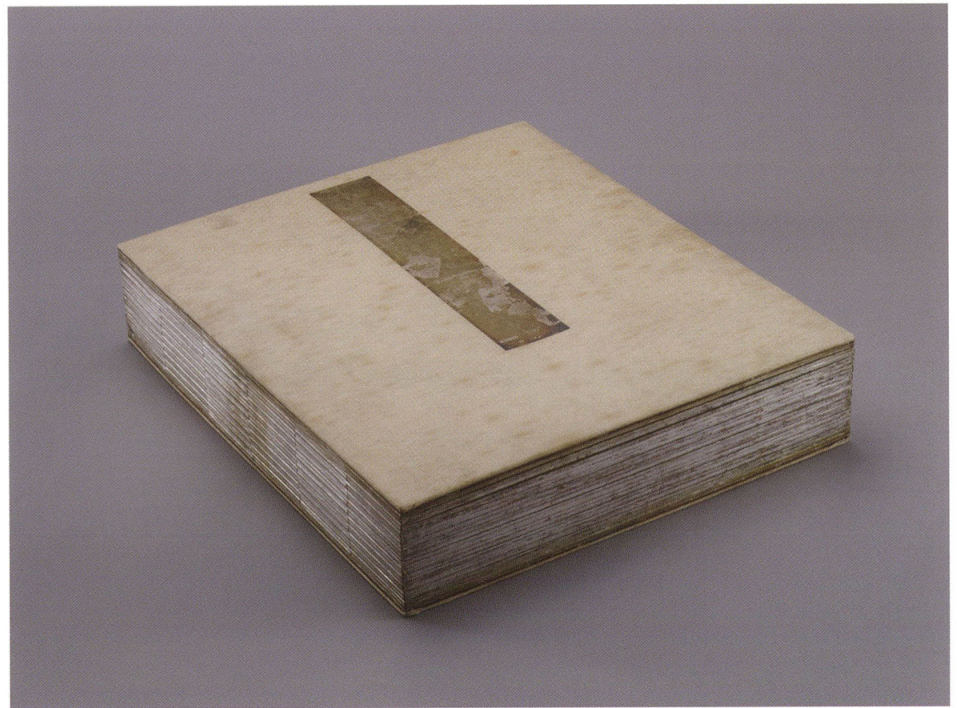


④

③

②

①



2 青年画帖

一帖

池田真哉ほか十九名の合作、  
上奏文・村田直景・関口隆正  
明治二十七年(一八九四)  
絹本着色  
本紙各三五・二(三七・二)×三二・七  
総四七・八×四二・〇×九・八



②②

②①

②①

①⑨





⑧ 尾形月耕 高砂



⑤ 寺崎広業 平安長春

明治天皇、昭憲皇太后の大婚二十五年（銀婚式）を記念して、明治二十七年に日本青年絵画協会が献上した画帖である。

この大婚二十五年は、皇室の御慶事を祝うため国を挙げて大々的な祝典がなされた最初の機会であり、以後明治、大正、昭和を通じ、皇室御慶事に際しては祝典を行い、全国より様々なお祝いの品が寄せられることとなった。当時、わが国では馴染みのなかつた銀婚式という風習を取り入れたこの祝典に際しては、数多くの銀製品が献上されたことも特徴である。その中で、本画帖も銀婚式を意識した装丁で、表紙には白地に題箋型の銀箔が貼られ、本紙を囲む縁もすべて銀地という、この祝典に相応しい仕立てとしている。

画帖を開けば、日本青年絵画協会の学術委員を務める村田直景と関口隆正による上奏文に始まり、続いて同会委員の画家十九名の絵が次々と展開し、最後に各図の画題と作者名を記した奥書で締めくくる構成となっている。日本青年絵画協会とは、日本美術協会の若手画家たちが独立して、明治二十四年九月に立ち上げた団体で、会頭に岡倉天心を据え、池田真哉、庄司竹真らを中心に青年絵画共進会と名付けた展覧会を開催した。本画帖には、その第一回（明治二十五年十月）と第二回（明治二十六年四月）の審査員、もしくは一、二等褒状を受賞した画家が主に筆を寄せている。また各図の画題は、「日月」「蓬萊」「二見浦」「鶴鶴」など、上奏文の漢詩に込められた吉祥的な語彙と通じて選ばれている。









⑪ 山田敬中 久米舞



⑥ 庄司竹真 徳若五万歳



⑭ 岡倉秋水 鶴鶴



⑬ 右田年英 養老

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

ひろげる、たのしむ、小粋な日本画 — 近代画帖の美

三の丸尚蔵館展覧会図録 No.55

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十三年七月二十三日発行

© 2011, The Museum of the Imperial Collections